

H25 校内研究計画

牧丘第三小学校

1 研究主題

確かな学力を身に付けた児童の育成
～言語活動の充実を図る実践を通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標から

本校では、学校教育目標を『よく学び健やかでたのめしく生きる児童の育成』とし、5つのめざす児童像を設定し、教育実践に取り組んでいる。特に、めざす児童像の一つである『よく学び志をもって努力する子ども』の『よく学び』とは、進んで学習に取り組み、知識や技能を習得しそれを活用して課題を解決する力を育てることを目標としている。

(2) 教育の今日的課題から

平成23年度から本格実施された新しい学習指導要領では「生きる力をはぐくむことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うため、言語活動を充実すること」が明記されている。「確かな学力」は「生きる力」を知的側面から支えているものである。今日、「確かな学力」の確実な定着を目指すことが学校教育に求められている。特に、「確かな学力」を形成する基盤としての「言語能力」の育成がすべての教育活動の基本的な考え方として重視されている。

(3) 児童の実態から

本校では、児童の表現力（話す力）に課題があるという実態から、4年前より、児童の「話す力」の向上を目指し研究を進めてきた。昨年度は、研究主題を『感じ取ったことや考えたことを伝え合い、学びを深める指導の工夫』とし、児童の「表現力」の向上を目指して研究に取り組んだ。その結果、個人差は見られるが、授業や学校行事などで、児童の話す力の向上が見られた。また、授業の中で、分かりやすく発表する児童、それをよく聞いていてそれに対して自分の考えを発表する児童など、伝え合う姿が多く見られたりするようになった。

一方、全国学力学習状況調査などの、学力調査では、文章や資料から必要な情報を読み取ったり、簡潔にまとめたりするなどの、読解力や表現力を問われる問題でつまづきが見られた。また、基礎的・基本的な知識及び技能が身に付いていない児童も一部見られた。

そこで本年度は、これまで培ってきた「話す力」をもとに、授業や様々な教育活動のなかで、言語活動を充実させることによって、基礎的・基本的な知識及び技能を習得することや、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を児童に身につけさせたいと考えた。様々な学習活動の中で、言語活動の充実に努めることで、児童に、基礎・基本の定着が図られ、確かな学力を身につけさせられると考えた。

以上のことから、研究主題を「確かな学力を身に付けた児童の育成 ～言語活動の充実を図る実践を通して～」とし、研究に取り組むこととした。

3 研究仮説

各教科、道徳、特別活動において、言語活動を授業に取り入れることで、確かな学力を身につけた児童が育つだろう。

4 具体的な内容と方法について

- (1) 理論研究 (講師を招いての学習会・文献や先行研究による学習会)
- (2) 検証授業の実施 (指導主事を招聘し研究授業を行い、指導を受ける。)
- (3) 全学年での授業公開 (一人一実践)
- (4) 日常的な言語活動・言語環境の充実に努める。
- (5) 少人数を活かした、個に応じた指導の工夫と評価 (パフォーマンステスト)
- (6) 校内研修計画

月	日	研究の具体的内容	提案・担当者	
4	5	昨年度の研究の共通理解本年度の研究の方向性	研究主任	
4	10	本年度の研究の方向性	研究主任	
4	24	研究計画の確定 授業公開予定の確認	研究主任	
5	1	言語活動の充実に係る確認	研究主任	
5	22	学習会 言語活動の充実に係る	教頭先生	
5	29	授業案検討		
6	19	授業公開と研究討議 ①・・・(6年)	6年担任	
6	26	授業案検討		
7	3	授業公開と研究討議 ②・・・(5年)	5年担任	
7	10	個人研究		
8	21	教育課程還流報告		
9	4	学習会	研究主任	講師
9	11	授業案検討		
9	18	授業公開と研究討議 ③・・・(1年)	1年担任	
10	9	授業案検討		
10	16	授業案検討		
10	23	授業公開と研究討議 ④・・・(4年)	4年担任	指導主事
10	30	個人研究		
11	6	授業案検討		
12	4	授業公開と研究討議 ⑤・・・(2年)	2年担任	
1	29	研究紀要作成の計画	研究主任	
2	19	本年度研究の成果と課題について	研究主任	
2	26	研究紀要の原稿仕上げ		
3	5	研究紀要の製本作業 まとめ		